輝かしき首途のときに

遠き真理の暁星一つをはまさ生命の寂寥に 大だい の が神秘尋は、 Ñ 12 も

転ん

永とこと

. の 旅ごろも

Ź

つ

孤影 簫々の荒野な起伏知らに慕ひゆく ですの荒野に消え

ぬ

高温 愛と誠に身をせめつ 運<sup>さ</sup>命め 寮‡ 窓ど |ふ哉美し青春の の羈絆固け 辺べ に泣く 、 や 人 性 が 'n ば 0

白珠碗に掬ば の浄涙をば な む

愛ぉ 智ぉ 秋 闌 た 寮と友も 孤さな の法燈さゆらぎて が 0 「の 微» ・揺籃に熟睡する ? 睫 に恵迪の 原始林のうら寂び 似光凄風に散り

> 自由の渚濤声とよむたゆり なぎきなみ 挽歌消え行き洋々のばんかき ゆしょうよう 啓さ 若き恩恵の聖火に狂 生の命を に喘る の渚濤声とよむ き魂を睦ぶとき Ó Ŧ. 旅が 『ぐ友垣と へ ともがき 路じ 厳し 粛さ 0 Š

新井 忠雄 坂 彪 君 君 作 作 歌 曲

Ŝ

に 帆 s 立 た 立つ吾寮いま

胸む玻は懸か琴は璃りけ 触ぶ 0 濁流れ

場が盃の面茜雲漂蕩ぎりて団欒す一刻の れ合唱ふうつそみ ひた超えて

Ó

忍苦染み映ゆ楡が ほき友情: を先人の

?枝ぇ に